



保存版

Racing Specialities

V-Cross2 Jr

取扱説明書

株式会社アライヘルメット

〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12

☎ 048-641-3825

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎ 048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）

ヘルメットをご使用になる前に必ずお読みください

本書は、ヘルメットの使用方法、お手入れの方法、使用上の注意を説明しています。ヘルメットを正しくご使用して頂くために本書を最後までよくお読みください。また、本書は、いつでも読み返せるように大切に保管してください。万一紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。

本書の各図記号は以下のような意味を表しています



本書の、左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



本書の、左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

※本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のために、お客様に守って頂きたい事項。

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守るために努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえどもいかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは萬一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよく理解いただき、常に安全を心がけて運転されますようお願いいたします。

正しいサイズのヘルメットを選びましょう

安全のために、頭に良く合ったサイズのヘルメットを被るということが大切です。サイズの合わないヘルメットでは頭が痛くなったり、充分な安全性を発揮することができません。ヘルメットを選ぶ時は、ご希望のヘルメットを実際に被ってみて、頭を軽く振っても上下左右にずれない大きさで、内装のフィット感が均一なヘルメットをお選びください。

あご紐は必ず締めてください

衝突した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から来るかも知れません。そんな時に、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐です。ヘルメットを被る時にはあご紐を必ず正しく締めてください。

走行中のヘルメットの操作は危険です

走行中にヘルメットの操作（シャッターの開閉等）を行なうには、ハンドルから手を一時的に離さなければならず、その結果、運転に支障をきたすことがあります。ヘルメットの各操作は、停車状態の時にに行ってください。

衝撃を受けたヘルメットは再使用できません

ヘルメットは、大きな衝撃を受けると、その一部が壊れることによって衝撃を吸収し、頭を守るように作られています。したがって大きな衝撃を受けたヘルメットは、例え外観に大きなキズが見られなくても性能が低下しています。衝撃を受けたヘルメットはそのまま使用にならず、弊社『品質管理課』まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。

ヘルメットを突起物に被せないでください

バックミラー等の突起物にヘルメットを被せると、衝撃吸収ライナを変形させるおそれがあります。そして、変形した衝撃吸収ライナは、衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメットのエッジモールを傷付け、それをきっかけに帽体の縁部分が露出するおそれがあります。帽体の縁は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと、転倒時に首や肩を傷付けるおそれがあります。

溶剤等はヘルメットのお手入れに使用しないでください

ヘルメットの表面、シャッター等の部品。ヘルメットの内装の汚れを取り除く際には、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。

ご自分でペイントする時の注意事項

ヘルメットをご自分でペイントする際には、以下の事によく注意して行ってください。まず、ヘルメットの外側を中性洗剤で水洗いし、汚れや油分を落とし、800番程度の紙やすりで軽くこすって表面処理をしてください。ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は、塗料に含まれるシンナーに侵されると衝撃吸収性が失われてしまいます。新聞紙とテープで塗料が入り込まないように念にマスキングし、ヘリ部分、ホック類、ネジ孔等にも同様にマスキングしてください。後はご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装してください。ただし、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。また、樹脂成型品（ホルダー等）は塗装に適していませんので塗装はおやめください。

ヘルメットは改造しないでください

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、これによって頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かどはいえ視界、聴力、運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットを被ると音が聞こえにく感じる例があげられます。これは、高周波の力が大きい音がクッション材等によって吸収されることによって音質が変化するため、通常の会話等の周波数はほとんど吸収されません。この事をご理解頂ければ、支障なく運転ができます。また、聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり、聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず、帽体や衝撃吸収ライナに穴を開けたり、削ったりするのは絶対にお止めください。

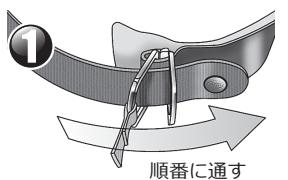
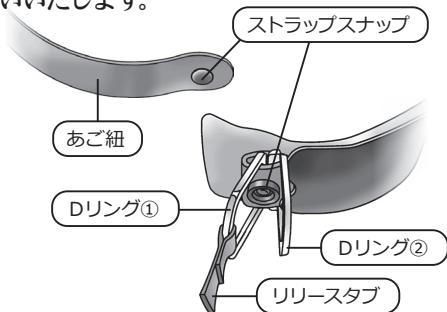
ヘルメットの性能は、不变ではありません

ヘルメットは、日々着用する事によって、帽体や衝撃吸収ライナ等の経時変化による劣化が進み、衝撃吸収性能が徐々に低下して行きます。SGマーク（製品安全協会の被害者救済制度）の有効期限（ヘルメット着用開始から、3年）を目安に、ご使用中のヘルメットに、これと言った異常が見られなくても、着用開始から3年経過したヘルメットは、お買い替えをお勧めします。

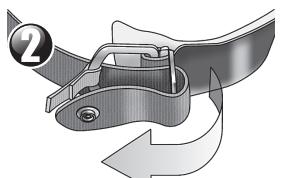
不安定な場所に置かないでください

ヘルメットを、不安定な場所に置かないでください。ヘルメットが落下して破損するおそれがあります。ヘルメットは、中身が空の状態で1m以下からの落下であれば性能には大きく影響しませんが※、落下の際にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、すみやかに新しい部品と交換してください。※但し、1m以下でもヘルメットの同じ所を何度も落とした場合は性能が低下します。

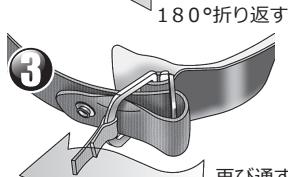
あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願ひいたします。



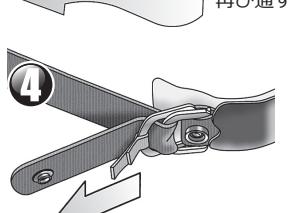
1. 二つのDリングに通す
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。
※あご紐を通す際には、途中で折れさせないようにご注意ください。



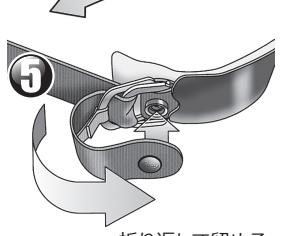
2. あご紐を180°折り返す
二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っ張って弛みを取り除きながら180°折り返します。



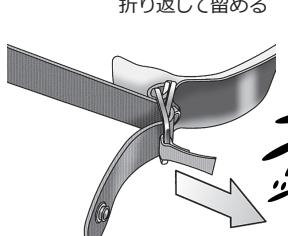
3. Dリング①に再び通す
折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



4. あご紐を引っ張る
あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っ張ると、あご紐が締まります。



5. 余った先端部を留める
余ったあご紐の先端部をストラップスナップで留めることで、あご紐の風によるバタつきや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。



リリースタブの使い方

あご紐先端のストラップスナップを外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っ張ると、あご紐を簡単に緩めることができます。



あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。



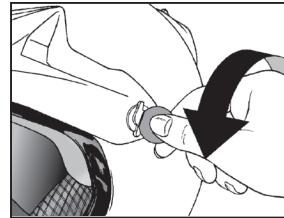
Dリングに通さず、ストラップスナップで留めただけの状態であご紐を持たないでください。持ち歩く際の振動等でストラップスナップが外れ、ヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。



バイザーの調節と着脱方法

①ネジをコインで緩める

まず、バイザーの取り付けネジをコインを使って緩めてください。(センター部のネジは、手で緩めることができます)



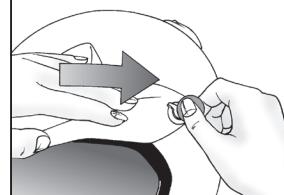
②バイザーの角度を調節

ネジを緩めた状態でヘルメットを被り、バイザーを動かして好みの位置に調節してください。位置が決まつたら、センター部のネジを手で締め付け、ヘルメットを脱ぎます。



③バイザーをネジで固定

ヘルメットとバイザーとの間に隙間ができるないように、バイザーをネジの方向に押し付けながら(右図を参照)左右のネジを締め付けてください。



バイザーの外し方

バイザーを固定している三本のネジを、左右のネジは10円硬貨で、センターのネジは手で緩めて、バイザーを取り外してください。



センターネジは、手で着脱が行えます。



両サイドのネジは、10円硬貨などで着脱が行えます。



バイザーの付け方

バイザーのセンター部と両サイドを、それぞれ専用の取り付けネジで固定してください。

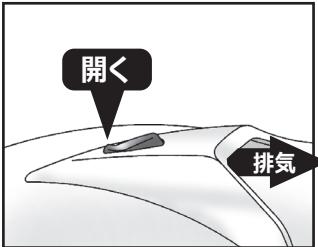


走行中にバイザーの角度調節を行うのは危険です。必ず停止時に行ってください。また、調節のために緩めたネジは、調節後に必ず締めてください。また、バイザーの中央の、スライド穴の上下を削るなどして、バイザーの調節範囲を広げる目的の改造はバイザーの設計強度を損なう危険性がありますのでおやめください。

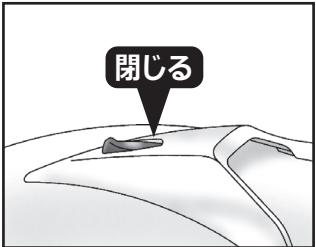
オプションパーツリスト

パーツ名		注文番号
Vクロス2バイザー	白	091690
Vクロス2JRシステム内装	I-7mm	072642
Vクロス2JRシステムパッド	30mm	052310
DDLダクト2	白	101820
Vクロス2ネジセット	白	112480

DDLダクト2の操作



▲スイッチ前方を押すと、シャッターが開き、ヘルメット内の空気を排出します。



▲スイッチの後方を押すと、シャッターが閉じます。

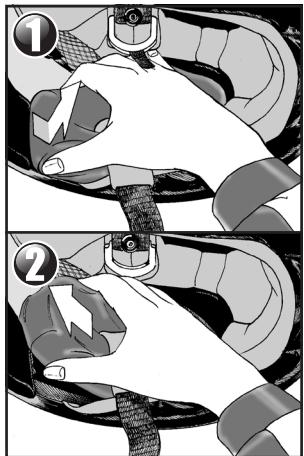


オートバイ走行中に、シャッターを操作するのは危険です。必ず停車時に行ってください。

システムパッドの着脱

システムパッドの取り外し

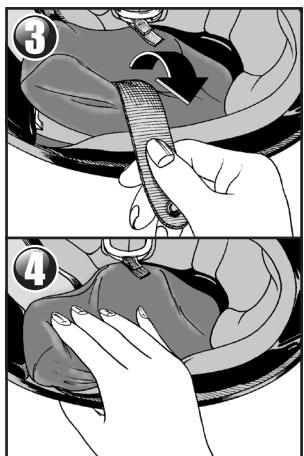
システムパッドを図①のように持ち、後方にスライドさせながら前方を持ち上げるとロックが解除されます。そして、図②のようにパッドを斜め前方に引き抜いてください。



システムパッドの取り付け

パッドの左右を確認し、図③のよう にあご紐をパッドの穴にあらかじめ 通しておいてください。

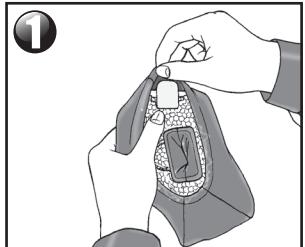
そして、パッド後方のツメを先にはめ込み、図④のようにパッド前方を押し込んでください。



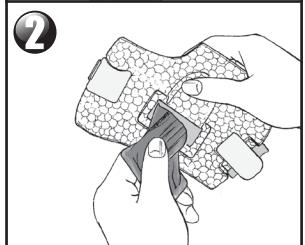
パッドカバーの着脱

パッドカバーの取り外し

①まず、パッド後方のツメの部分から先にカバーを外し、そして全体のカバーを外します。



②次に、パッド裏面のストッパー(あご紐の通る四角い部分)を持ち、カバーを引き出してください。



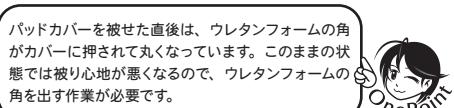
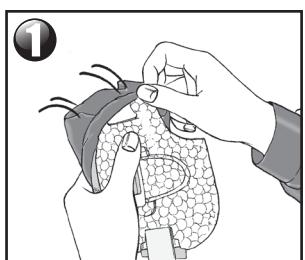
パッドカバーの取り付け

最初に、パッドカバーを次のようにして左右の確認をしましょう。

まずカバーの形を整え、平らに伸ばしてください。すると、下の図のような形状になるので、平らに伸ばしたカバーと見比べて左右の確認を行ってください。

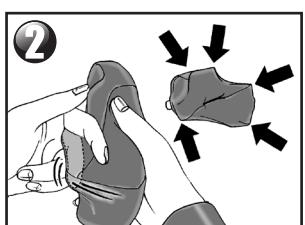


①パッドカバーの左右の確認ができましたら、同じ方向のパッド本体にカバーを前方から被せ、最後にツメの部分をカバー後方の穴に通します。

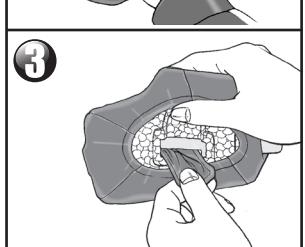


②パッドの角を出すには、システムパッドの頬にあたる面の、中央の穴に指を入れ、パッドカバーを指先でグイッ！と引っ張り上げると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができる、ウレタンフォームの角が回復します。

(矢印で示した部分に上記の作業を行ってください。)



③最後に、パッド中央の穴にストッパーを通して、パッド裏面の窪みにストッパーを収めてください。



システム内装の着脱

システム内装の取り外し

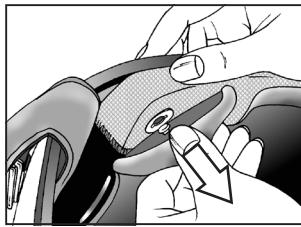
システム内装は、4個のホックでヘルメットに取り付けられています。

パッドを取り外す時は、それぞれのホックのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っ張ると取り外すことができます。

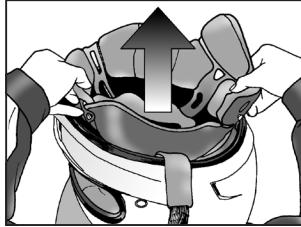
4個のホックを外し終えたら、システム内装をヘルメット内より取り出してください。その際に、後で内装を取り付ける時のために、内装の取り付けられていた方向を覚えておいてください。



▲前方のホックを外す



▲後方のホックを外す



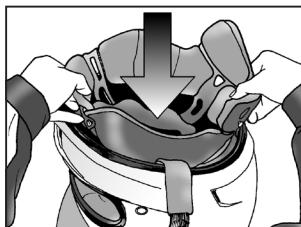
▲内装を取り出す

システム内装の取り付け

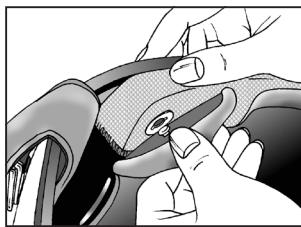
システム内装を取り付ける際には、システム内装の前後、上下を確認してヘルメット内に入れてください。

そして、システム内装のそれぞれのホックの位置を合わせて押し込んでください。

全てのホックの取り付けが終了したら、内装が歪んでないかを確認して作業終了です。



▲内装を入れる



▲後方のホックを付ける



▲前方のホックを付ける

注意 システム内装をヘルメットから取り外す時には、内装をもぎ取るような外し方はせず、ホックの破損を防ぐため、予めホックを全て外しておいてから内装を取り出してください。

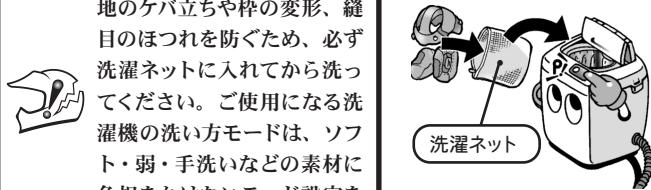
ヘルメットのお手入れ

■ヘルメットを構成している部品には、バイザーやダクトなどの【樹脂成型品】、衝撃吸収ライナの【発泡スチロール】、内装材の【発泡ウレタン】及び内装生地の【化学合成繊維】などがあります。これらの材料はシンナー系の溶剤、ガソリンなどに触れると素材が侵され、本来の機能を損ない、ヘルメットの安全装備としての性能を維持できなくなります。

システム内装の洗い方

システム内装を手洗いする時は、家庭用洗濯洗剤を使用し、ゴシゴシもみ洗いは避け、システム内装の枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。その後、水でよく濯ぎ、水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所で自然乾燥させてください。

洗濯機で内装を洗う際は、生地のケバ立ちや枠の変形、縫目のほつれを防ぐため、必ず洗濯ネットに入れてから洗ってください。ご使用になる洗濯機の洗い方モードは、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード設定をお選びください。



樹脂パーツのお手入れ方法

バイザーやダクトなどの樹脂パーツは、薄めた中性洗剤（食器洗い用）に浸した柔らかい布で、表面の汚れを拭き取ってください。

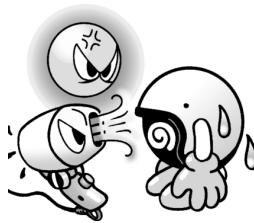
注意 樹脂パーツのクリーニングを行なう際、ガラスクリーナーやシンナー系の溶剤、ガソリンなどをご使用になると、表面塗装や素材が侵され、破損するおそれがあるので絶対に使わないでください。



ヘルメット本体の丸洗い方法

ヘルメットを丸洗いする時は、ヘルメットからバイザー、ドレンキャップ、着脱式内装を取り外し、ヘルメット全体を洗濯洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で充分に濯ぎ、ペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所に、ヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。

危険 ヘルメットを乾燥する際に、ドライヤーなどで50℃以上の熱を加えたり、ヘルメットを長時間、直射日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。



ドレンキャップの外し方

ヘルメット内部の天井部分の穴（ドレンホール）にボールペンの軸を差しこみ、衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）を傷付けないように注意しながらドレンキャップをゆっくりと押し出してください。尚、取り外したドレンキャップは小さいので紛失にご注意ください。

